

まつたので人々恠しみ恐れをなし尋ね行きて見届けんと云ふ者も無い、それで夜の明くるを待ちて社司と共に同所に尋ね行きたるに、天の瓊矛を携へたる相恰端然たる一軀の神像が巨巖の上に立つて居た、それで浦人等は此の日陰神の御祭禮日に當り陽神の神幸ましますことは深き因縁あることなりと打喜び、倅て何處に御社を定むべきかと寄々に協議を凝して居た、然るに社司某の夢に祭神彼に宣はく、吾を鳥居渡の上なる高き山の朝日さす夕日かトリウドやく處に宮造して齋き祀らば、產土神なる陰神と共に此の浦の守護となり就中沖漕ぐ船の風荒くとも真心をもて祈り禱らば聞き夜は光をあらはし船覆るの患無かるべく、又朝な夕なに漁舟の往來をも見て氏子の幸を永く護らんとあつたので、村人等と謀らひて今之地に宮居を定め、朝日夕日の輝く山と云ふ意にて日ノ山と名づけ、即ち此の神を日ノ山大權現と稱へ奉り熊野日ノ山兩社を此の浦の產土神とした、夫れより毎年九月廿三日に熊野宮に神幸あり、兩日に兩社の神事を執り行ひ廿四日に還幸ます例となつたと、今茲に大正十四年に至りて壹千五拾五年連綿として絶ゆる事が無い。

又一説に、社司の夢に相恰端正なる御姿あらはれ社司に告げて宣はく、我

長崎市史地誌稿 日山神社

七二二

### 攝社

## 一、日山神社

祭神伊弉諾尊

所在野母村海門山字タケノ山々頂

此の山は一名を權現山、又日ノ山、或は火ノ山と稱し野母半島の西端突角をなし半島の諸山と連絡せず、特り蒼溟の間に卓立して一團靈秀の山彙を爲す、往昔は我が國の最西端で麓の巖に打寄する直浪徑波は唐土天竺より來りしものとなし詩にも歌にも詠まれたものである。試みに山頂に攀づれば眼前廣茫として際涯無し、維新前には當社の後なる地續の地に遠見番所の設ありて異船の出入を監視して居た。

沿革 熊野神社縁起に曰く昔、清和天皇の御宇貞觀十三年九月二十三日熊野大權現例祭の當日とて村中の老若男女は悉く休業して社頭に通夜をして居たが、夜半に至り西南の方海上遙に光明赫々たるものあり、皆々龍燈にやど怪んで居る内、次第に陸地に近づくに従ひ日輪の如くなりて鳥居渡の浦に止

は漢土に在りて娘媚神と云ふ船神である、故あつて此の浦に來れり我を西南の海上遙に見渡す可き高山に祀らばその山より見へ渡る限りの海上に於て和漢の船々末代に至る迄難船する事無き様守護すべし云々と、社司覺めて鳥居渡に至り見るに漢木にて刻せる觀世音菩薩の御姿に肖たる容姿端麗なる木像が岸邊に漂着して居た、里人等之を取り上げ見るに異香馥郁として薰するので皆々奇異の思をなし靈夢の告にまかせて高山に安置し奉らんとして海門山の頂を相し茲に宮居を創設したのであつた、即ち日ノ山大權現と崇め稱したのであつた。

以上は熊野神社縁起の語る處であるが同社の部に於て述べたるが如く、目下同社には當社創立に關して依據すべき史料皆無なる爲め茲には傳説のまゝを記述して置くこととした。

之より後熊野宮と當日ノ山宮とを合せて熊野、日山無量權現と稱へた、當時本地垂跡兩部習合の時代であつた爲め熊野宮は阿彌陀如來の、日ノ山宮は觀世音菩薩の垂跡なりとしたのであつた、貞享四年禰宜山口内記上京して吉田家に就き無量權現を改めたる事は前に之を述べたる通りである。

寛永十五年 島原の亂平ぐの後、松平伊豆守信綱は長崎に來りて對外國施設を決定したが、當時當野母半島を巡廻して日ノ山頂に登攀し、遠見番所を當日ノ山及び西側地續の權現山に設け外泊渡來を急報せしめた。

此の時信綱は當神社の御神体及び由來に關して問ふ所あり、敬虔の念止み難く神饌料を奉納した。後長崎奉行や所轄の地方代官やが當地遠見番所巡見に際しては必ず此の例に依ることとなつた、されば當社では天下泰平、武家方武運長久、異國靜謐の祈願怠らず以て明治維新に及んだものである。

正保二年 當社に壇を建立した。正保前に於ける當社の沿革は記録なき爲め一切不明である。以下禰宜山口家の記録に依る。

寶永三年 當社拜殿を瓦葺とし正徳二年神殿を改築した。

正徳三年九月廿三日 始めて神輿を熊野大權現に渡御し奉る、翌廿四日還御あり爾來定例となり以て今日に及んで居る。神輿は野母村壯丁之を昇ぎて日ノ山を降り里浦を經て熊野大權現神殿に奉安す。

寛延三年九月十五日 七代對馬守代拜殿の改修此の日を以て成就したが、越えて天保六年八月亦之を改築した。

文政三年八月 十八日より二十四日まで鎮座九百五拾年大祭を執行したが此の時里浦より俄手踊を献じ、近村より見物の群集あり中々の賑を呈した。

其の大祭費錢六拾貫文は之を戸別に徵集した。

文政五年八月二十日 山口主殿代當社雨覆殿落成した、畔津中の發企する所であつた。

天保六年八月 正殿及び拜殿再建成就した。

明治維新に及び熊野大權現と共に權現の稱號を廢して日ノ山神社と唱へた。

明治三年 従來熊野神社と各別であつた野母村に於ける當社氏子は熊野日山兩社氏子として之を合併した。

明治七年 熊野神社が野母村々社に指定さるゝに當り、當社は其の攝社として奉仕する事となつた。

大正八年三月 神殿の大改修を、同九年五月拜殿を改築した、即ち現今の建物である。

此の神社より長崎縣廳まで陸路八里

境内 千七百貳拾九坪

官有地

内神社所在の平地は百坪東西拾參間南北八間で他は神社を繞る山林である。

境内建物

**正殿** 日ノ山々頂四望濶達特に眺望雄大の地で東に面す、銅板葺、木造、流造壹坪五合五尺に六尺の總檜材勾欄附廻廊を繞らせる建物で、向拜六尺に貳尺五寸口に濱縁壹坪（九尺に四尺）を設け屋根は二重繁垂木で向拜口の飛龍、獅子の彫刻は熊野神社に於けるものと年代刀法同一のものであらう、而して神殿は八合參勾餘六尺に四尺

**舞殿** 木造、瓦葺、切妻造、平屋四坪半壹丈八尺に九尺

**拜殿** 木造、瓦葺、切妻造、平屋六坪 壱丈八尺に壹丈貳尺の建物で向拜口六合六勾餘六尺に四尺を附設す、殿内正面に日山社なる木額が掲げられてあるが之は明治維新當時澤長崎總督が揮毫したものである。

**鳥居** 1. 拜殿の前にあるもの

花崗石、高壹丈五尺、巾九尺五寸奉寄進（左）

元治元甲子四月吉日（右）（銘）

2. 1. の東一丁餘を隔つる所に在り、安山岩高壹丈貳尺、巾九尺、奉寄進心願

成就（左）寶曆七丁丑年二月吉祥日（右）（銘）

3. 日ノ山中腹に在るもの、砂岩高壹丈四尺巾壹丈、維時安政六己未歲（左）

春三月吉祥日（右）（銘）何れも額は日山神社とあり。

**常夜燈** 1. 拜殿の前に在るもの 壱對村、花崗石高五尺八寸、奉獻文久二年戊二月米

屋要右衛門（銘）

## 長崎市史地誌篇 日山神社

七二八

2. 2の鳥居兩側に在るもの、安山岩高五尺奉獻文化十四年正月

心願成就阿州名西郡上山安太郎（銘）

## 獅子狛

文政六年六月吉日奉獻當村畦津若者中（銘）

## 石 盥

奉寄進手水石壹基、野母浦火之山、無量大權現御神前、貞享元年九月十三日

## 肥前國小城郡牛津新町持永傳之允、戸川町横口幸右衛門（銘）

壹 對

直徑壹尺六寸（安山岩）

壹 基

傳說 野母浦人が事實として語り傳ふる日之山權現靈驗の一節に次の如きものがあつて今でも浦人は固き信心を持つて居る。

野母浦の漁人等は板子一枚を金殿玉樓とし、一年三百六十五日中の三百日は荒海の波の上にありて蒼空の明月を友とし、東支那海を吹き通す潮流に曝されて暮らす實に海上は彼等の住所なのである、夫れで夕やけを見ては明日の天候を卜し雲の佇すまい星の煌めきを眺めては風雨の至るに備ふる、天氣豫報、晴雨觀測の正確機敏なることは實に驚く可き程の實驗と知識とを有するのである。

夫れで風和に波靜なる日の彼等の作業の愉快さは羨敷程であるが、一旦雲怒り波狂ふの日は全く生きながらの地獄である、かゝる時船人共に海底の藻屑となれる例は古來其の例甚だ多く、當時には一村内若者の大部分が難破して死体の行方全く不明なる爲め、所謂空葬禮の五十の柩が列をなして藏徳寺や海藏寺に送られた事は里人の語り草にも言ひ繼がれ兩寺の過去帳にも明記してある。

編者が大正十三年の春當社調査の爲めに同地に滯在して居た時、年頃きて腰に梓の弓を張れる老漁夫が、實驗談として語る所に次の如き一節を聞いた。

現今の世は便利な機械が出來、風雨の豫報が非常に正確でありますので冒險でも強いてやらざる限り海上に危険と云ふ事はありませんが、私共の壯い頃は中々今の様には参りません、如何に熟練はしても時々は天氣の觀測を誤りまして沖へへへと出る、そろそろ風向が悪くなる、夫れに雨まで加はる、風が募る浪が高くなる、風の強き時には簾板が木の葉か薄紙の様に飛ぶ、一尺か二尺を隔てた距離にある乗組が如何に大声を出しても何を言ふのか聲は聞えるが言葉が別らぬ、忽ちにして天空開闊の波頂に吹上げられたかと思ふ瞬間に奈落の底に落下する。

斯の如きに際しては人力も機械力も何等の權威はあるものでは無い、日頃は力を自慢し腕を誇りし若者も、一時立ち二時と經る内に神身疲勞し盡してもう駄目だと斷念の眼ざしを表現する、此の時の船中の模様と言つたら述も形容の出来るものちやありません。

もうかうなれば頼むものは不思議の神助あるのみ乗組は期せずして日ノ山大權現に大悲の冥助を祈願する、一期の大難を助け給へと念する、或時の事でした私が四十二三の時です、丁度斯うした一期の大難に遭遇しました時、不思議なる哉何處よりも知れず一羽の白鳥が帆檣を臨みて飛翔し來り檣頭に止まりました、今迄は身體綿の如くに疲れ果てゝ網もて身體を船に括り附け、或は帆檣に抱き附き纏かに餘喘を保てる船員等が是を見るに及び神威一船に及べるを感じて忽ちにして勇氣百倍し檣を押す楫を操る遂に風浪を押し切りて無事歸村するを得ました。

斯くして海上難船に際し船中一心に大權現に祈念すれば不思議にも風浪次第に平穏に歸するのです、時には夜中方角を失して苦心慘憺たるに際し遙に火ノ山々頂に靈光が一閃すると船中は忽ちにして歎聲湧き海路自ら安らかに岸邊に安着するのであります云々。

以上は野母浦老人共が實驗せし例話である、斯くの如くして九死に一生を得たりし漁人等は船の波止場に近づくと共に跣足のまゝ熊野兩社に詣でゝ救命の神恩を感謝するのである、夫れで以前は此の山を火ノ山と書いたものである、斯くの如き信仰を有する野母村民の熊野兩社に對する崇敬の念の篤きは到底他村民等が想像の外である。

夫れで火ノ山權現の靈験著しく渡らせ給ふことを傳へ聞ける諸國往來の舟人等が、權現に祈願して難を免れし例は古來無數である、此等の人々は所願成就の奉謝の爲め鳥居、石燈籠等の建物を一手に奉納し或は金品を社頭に獻じて神恩を鳴謝したのである、今に兩社境内に此の種の建物が残つて居るが、惜しい事には明治維新後此の種の建物の倒潰したものが多いことである。

## 末社

## 一、稻倉魂神社 雜社

祭神 宇迦之御魂命

所在 野母村出口郷字出口丘上  
沿革 寛政九年二月五日の創立で出口郷の氏神である、創立後の變遷に關しては史料無き爲め之を明確ならしむることが出來ない、目下野母熊野神社々掌の勤務する所で出口郷民參拾參戸にて維持して居る、祭日は舊九月二十三日である。

境内百貳拾四步

東九間

北拾五間

西五間

南拾壹間

民有地第一種

境内建物

正殿 北向き、六尺に五尺

拜殿 左右に下屋を構へ六尺に貳尺の向拜にあり、七坪半（貳丈壹尺に壹丈貳尺）の

明細帳には共に木造、瓦葺、切妻造、平屋である。明治八年の  
上建物は此所は長崎縣廳より七里拾町を隔つとある。

## 二、琴平神社 雜社

祭神 崇德天皇

所在 野母村字サルオトシ（日ノ山の前面）丘上、此處は野母村里郷より日ノ山に登る絶頂部で四望闊達、眼界の及ぶ所眺望誠に雄大である。

沿革 文政八年乙酉三月に勧請したもので爾後の沿革は詳かで無い、熊野神社の末社で舊三月、十月の各十日に例祭を執行する。

境内拾六坪

東西五間

南北五間

有税地

境内建物

正殿と神殿とを合併せる一棟 木造、瓦葺、切妻造、平屋貳坪貳合五勾（方九尺）の

札が張られて左の文字がある。「奉棟上手置帆負命、  
八意思兼命、彦狹知命、文政八年乙酉三月吉辰」

鳥居

天保十二年三月吉日と銘す、此神社より長崎縣廳まで陸路七里參拾貳丁

此の外に事代主神社二社は明治某年に本社に合祀され、葉山神社は明治維新の際廢社となつた、舊址は歴として殘存する事は別に述べたる通りである。

### 第三節 住吉神社

中筒之男命

上筒之男命

所在 西彼杵郡川原村字宮田

川原大藏太夫  
住吉社勧請

吉利支丹の災

沿革 人皇六十六代一條天皇の御宇正暦五甲午年川原村邑主川原大内藏太夫高滿の勅請する所で川原大明神と稱した、降りて人皇百一代後花園天皇の康正二丙子年八月十六日大家源左衛門大江宗種之を再建し今村和泉なるものを以て神主としたとは當社縁起の傳ふる所である。

足利氏の末吉利支丹宗蔓延し當地方も其の惑溺する所となりて士民之に化し、神社佛閣は毀たれたが當社も此の時に破壊せられ殆んど廢絶の姿となつて居た。

寺澤廣高再興 德川氏の世となりて吉利支丹宗禁壓の制布かるに及び寛永二年時の領主寺澤兵庫頭は先づ當社を再興し住吉大明神と改稱し、今村左近豊次を其の神

主に任じた、爾來當社は川原村の鎮守で今村氏其の神主として明治に及んだものである。

吉田家入門 元祿元年 神主今村某名不詳は京都に上りて神祇道管領ト部家に就き唯一神道を相傳し子孫相承けた。

改築 嘉永六年 九代神主今村豊重の時社殿を改築した、此の年神祇管領ト部良熙は當住吉大明神の神璽を改めた、乃ち神代の靈印を以て靈璽を勅請したと云ふ。

慶應四年三月太政官達により住吉神社と改めた。

明治七年五月 川原村村社に指定せられた。

目下當社は高濱村々社八幡神社々掌の兼務する所で氏子川原村民全部その氏子である。當社大祭は舊九月廿八、廿九の兩日で廿八日に神輿を渡御し奉り氏子中當村内の各郷青り年輪番に神輿を舁ぐ廿九日に還御せらるゝのである。

境内 参百貳拾步 東西 拾六間 南北 拾六間 明細帳に參百六拾六坪とあり。

境内建物

長崎市史地誌篇 住吉神社

正殿 木造、柿皮葺、流造約貳坪  
珍妙簡佳で前面向拜口に壹對の狛犬(石)  
延寶九年二月吉日森

九尺に七寸  
壹間に貳尺の勾欄  
拜付を廻  
附設を構  
てある。參  
此勾欄の餘

幣殿 木造、瓦葺、切妻造貳坪貳合五勺（方九尺）  
拜殿 木造、瓦葺、入母屋造五坪（壹丈五尺に壹丈貳尺）の建物で壹坪（九尺に四尺）の向拜口を具ふ。  
高臺丈巾八尺で嘉永六年癸丑年九月吉辰仲生大次

藤原豊直、庄屋今井村永琢の年文が字が古風ある。

附屬社 附屬社 九社（類社）あり

三

祭  
神

創立年月日不明、文政九年四月十  
正殿 方四尺 三間殿 六尺二九尺

正月 大凶 二月 小凶 三月 大凶

池之御神社

祭 神  
須佐之男命

卷之三

勸請天德二戌年八月朔日

新編 日本ノ屋ア十二作精

なりと。祭日舊九月廿五日

當社申本は友誼の神聖である所文の之を離すべく、或は當村の過失

れるにはあらずやと思はる。

之御前社 川原村宇池之山中に在り、其の右側が有名なる川原ノ池（雌池）である。

勸請川正原晋五藏午年十一月高滿創立祭日舊十一月九日

明細帳には貳百貳拾四坪とあり。折合間

川原村字畠作にあり、村の北方、秋葉山頂に

祭神 迦具土命 石祠内に安置す

詩金月不諱

**社 地** 貳拾八步（東西六間南北五間） 民有地第一種  
**金刀比羅神社** 川原村字カブト木場に在りて川原村より脇岬に通する天草洋に面せる地である。

**祭 神** 大物主命 崇德天皇 石祠内に奉祠す。

**勅 請** 年月不詳 祭日舊三月十日

**社 地** 拾六步（東西、南北各四間） 民有地第一種

**菅原神社** 川原村字徳直に在り、此の地は川原と高濱村との境界より高地頂上で山又山の險阻なる山頂である。（長崎市縣社松ノ森神社記事参照）

**祭 神** 菅原道眞公 石祠内に奉祀す。

**勅 請** 年月不詳 祭日舊八月廿五日

**社 地** 參拾步（東西六間南北五間） 民有地第一種

**事代主神社** 川原村エビス山頂に在り。事代主神 石祠内に奉祀、元境内神社であつた金刀比羅神社を合祀す。

**勅 請** 延寶九年三月 祭日舊十月十七日

**社 地** 參拾步 東西五間 南北六間 民有地第一種

**菅原神社** 川原村字シロ山にあり

**祭 神** 菅原道眞公

**社 地** 六坪 民有地第一種

**八幡神社** 川原村字シロ山

**祭 神** 仲哀天皇 應神天皇 武内宿禰

**由 緒** 不詳

**社 地** 拾八坪 民有地第一種

**淡島神社** 川原村字池ノ瀬

**祭 神** 大名守連命 少毘古那命

**由 緒** 不詳

**社 地** 壱坪 民有地第一種

**祭 神** 今村和泉守豊宗

永祿元年在勤中

**初代** 今村和泉守豊宗

永祿元年在勤中

**二代** 今村左近豊次 承應年間在勤中

承應年間在勤中

**三代** 今村隼人豊英 元祿十五年在勤中

元祿十五年在勤中

**四代** 今村豊覺 寛永八年四月歸幽

寛永八年四月歸幽

五代	今村登太郎	正徳二年在勤中
六代	今村 左近豊正	享保十五年二月歸幽
七代	今村 隼人豊容	寛延四年四月歸幽
八代	今村和泉守豊后	文化四年三月歸幽
九代	今村 大學豊高	文化三年三月十六日より、歸幽年月不詳
十代	今村縫殿介豊明	天保三年三月より、歸幽年月不詳
十一代	今村 大炊豊重	嘉永六年十月六日より慶應二年二月まで
十二代	今村 豊幸	在職拾四ヶ年歸幽年月不詳
十三代	今村 豊安	明治廿四年一月十四日より明治十五年八月廿四日迄在職拾七ヶ年
十四代	今村 豊幸	明治卅五年十月二日歸幽
		在職參拾壹ヶ年大正十年十一月廿七日迄
		大正十五年八月二十日より
		明治廿七年十一月廿七日歸幽

## 第四節 八幡神社

祭 神 帶中日子尊  
品陀和氣尊  
息長帶比賣尊

所 在 松倉重政再興

託麻氏を神主とす

沿革 戰國の末吉利支丹宗長崎附近に蔓延した頃當村も亦擧げて該宗に席捲せられ神社佛閣悉く其の跡を沒した、寛永三年領主松倉豈後守領内を巡檢して神社佛閣を再興せし時、同三月當村古來の神社なる當社も亦之を再興し一村の產土神とし茂木村八武者權現の神主託麻式部清重をして其の兼務神主たらしめた、爾來當社神主職は託麻氏之を世々にして明治に及んだ。

明治七年五月五日 村社に列せられた。

明治十七年 當社兼務社掌託麻武度の歿後長崎村西山神社々掌堤利信の兼務となり、後喜々津神社々掌之を兼務して今日に及んで居る。

境 内 六百八拾壹坪

東西約貳拾貳間半

官有地第一種

## 長崎市史地誌篇 八幡神社

七四二

境内は寛永三年當社再興の際除地となり、明治維新後官有地に編入せられた。明治八年度明細帳には壹反五畝貳拾歩とあり。

## 境内建物

正殿 木造、瓦葺、流造壹坪半 六尺に九尺

幣殿 木造、瓦葺、切妻造壹坪 方六尺

拜殿 木造、瓦葺、入母屋造拾坪半 貳丈壹尺に壹丈八尺で向拜約壹坪 六尺に五尺の他下屋 四坪 八尺に壹丈八尺を附設してある。

## 常夜燈

1. 高九尺、正殿の兩側に在りて文政九年十月長崎市引地町岡勘助、岡政治の銘あり。
2. 拜殿の兩側に在り、高六尺、明和八年辛卯歲十二月吉祥日向日講中（左）松原名講中（右）（銘）す。
3. 拜殿の下段にあり、高六尺四寸で大正十二年十一月建之（左）松尾賣作、同久雄、光治（右）と勒す。
4. 殿の下段にあり、高八尺で文政丙戌年十一月吉祥日講連中施主中里名本田童助他三名（氏名略）木場名横瀬市平（左）講連中施主向名井手悦藏他五名（氏名略）（右）（銘）

## 鳥居（右）

1. 拜殿の前面に在るもの高壹丈巾九尺で額に八幡宮、左柱に安永元壬辰年十一月と刻す。

初代より十一代までは裳着神社に同じ

十二代 成林左馬太

喜々津村阿蘇神社々掌

就退任年月不詳

十三代 松尾虎雄

喜々津村阿蘇神社々掌

明治參拾壹年十二月五日より

## 歴代神職世系

2. 社地の入口に在るもの高壹丈巾九尺で額に八幡宮、左柱に安永三甲午年三月と勒す。  
此の他日露戰役記念碑 高七尺内四尺（臺石）巾參尺八寸 忠魂碑 高六尺（内臺石四尺）  
巾參尺八寸 共に元帥海軍大將伯爵伊東祐亨題字で第一鳥居の内側に建つ。

## 第五節 天満神社

祭 神 菅原道眞公

所在 長崎縣西彼杵郡日見村字宮ノ本 管轄地沿革は略茂木村に同じ

沿革 寛永三年三月十八日島原領主松倉豊後守重政の勧請するところで茂木八武者權現神主託麻氏神主を兼ね明治維新に及んだ。

明治七年五月 村社に列せられた。

明治十七年 當社兼務祠掌託麻武度の歿後長崎村西山神社祠掌堤利信當社を兼務し、其の後矢上村箭上神社社掌の兼務する所となりて今日に及んで居る。

目下兼務社掌壹名、氏子日見村住民約五百戸で毎年十月廿四日を以て例祭を執行して居る。

境内 円内貳千貳百貳拾坪 官有地第一種

境内建物

正殿 東南に面す、木造、瓦葺、流造四坪 方壹丈貳尺勾欄附廻縁を繞

らす。向拜間口六尺入參尺。

幣殿 木造、瓦葺、切妻造、貳坪貳合五勺 方九尺

神樂殿 木造、瓦葺、切妻造貳坪貳合五勺 方九尺

拜殿 木造、瓦葺、入母屋造七坪間口貳丈壹尺 向拜間口壹丈入五尺。

鳥居 (石)

四基

1. 境内上段に在るもの高九尺巾七尺で奉、弘化五乙巳八月吉日 (左) 献、久米廣輔、同

孫三郎 (右) (銘) 扁額に梅鉢の紋章あり、

2. 中段に在るもの高九尺巾八尺で奉再興増五郎外拾六名 (左) 賽曆七丁丑八月敬白 (右) (銘)

3. 下段の内部に在るもの高九尺巾六尺五寸、奉、日露戰役記念 (左) 納、明治四十年五月建之平井善作外八拾壹名 (氏名略) (右) (銘)

4. 境内の入口に在るもの高壹丈、巾八尺五寸、明治八辛卯年八月吉辰 (左) (銘)

常夜燈 (石)

壹參基對

1. 拜殿の左右に在るもの 高五尺五寸寛文四年辰八月廿五日施主松竹孫九郎 (左) 享保

十九年九月吉日講仲間 (右) (銘)

2. 中段に在るもの 高八尺奉寄進、寛保元酉年 (左) 天満宮、十二月二十五日朝

堺郷 (右) (銘)

3. 同所に在るもの 高五尺五寸寛延元年辰八月日奉寄進、船津、久左右衛門 (左) 松之助、吉郎次 (右) (銘)

長崎市史地誌篇 天満神社

七四六

4. 下段に在るもの 高八尺(自然石) 明治三十二年三月吉日

## 歴代神職世系

裳着神社に同じ、堤利信退任後箭上神社々祠兼務となる。

## 第六節 熊野神社

祭神 伊邪那美命  
須佐之男命

所在 西彼杵郡樺島村字新町

此の地は樺島灣の東側丘麓で直ちに樺島灣に臨み歎乃の聲手に取るが如くに聞ゆる。

沿革 往古より當地の總社であつたが吉利支丹宗盛なりし頃、其の壓迫の爲めに殆んど廢絶して居たのを村民森掃部なるもの發企再興の志を起し寛永十二年當地が島原松倉氏の所領たりし時に領主の許可を得て今之地に神社を設立したので、寛文年中境内除租となつたが何時の頃よりか野母村熊野神社補宜山口氏の兼帶する所となつた、舊記皆無なる爲め事蹟の傳ふるもの無し、明治七年五月村社に指定せられた、爾來事歴不明。

現時社掌壹名、氏子四百戸 樺島村全部 で年中行事中特に舉ぐべきものは無い、祭日は舊六月十五日、九月十八、九月廿日で舊正月十五日に春祈禱を執行

する。

境内百貳拾五坪

南北貳拾五間

官有地第一種

境内建物

正殿木造

(總檜) 銅板葺、二重繁垂木、流造貳坪半九尺に壹丈の建物で

勾欄附廻縁と向拜口六尺に貳尺五寸を備ふ、神殿は五尺六寸に四尺七寸。

拜殿木造

、瓦葺、入母屋造、平屋拾參坪半貳丈七尺に壹丈八尺の建物

で向拜口九尺に四尺堂内正面に熊野社の三字を題した木額堅貳尺九寸横壹尺七寸五分がある、此は明治初年長崎裁判所總督澤宣嘉の揮毫せるものである。

末社

稻荷神社 拜殿の右側に在る木造、瓦葺、切妻造、平屋壹坪方六尺の建物である。

天滿神社

（拜殿左側前面下段に在る木造、瓦葺、切妻造、平家の正殿（參尺八寸に貳尺八寸、砂岩明治三十一年八月建）石鳥居壹對（高五尺八寸、砂岩高七尺貳寸巾五尺七寸）あり。

記念碑

日清役記念碑、日露戰役凱旋記念碑、忠魂碑等

鳥居

1. 石礎下兩側に在るもの、砂岩、高壹丈參尺巾壹丈、額熊野神社、天滿神社、奉獻、明治三十二年一月中村貞次郎外五名（氏名略）社掌近藤繁吉（銘）

1. の鳥居の後方に壹基あり高八尺五寸で明治六年二月吉日奉上久榮喜助島原石屋の銘あり。

常夜燈

1. 天然物  
2. 天然物  
3. 天然物  
4. 天然物  
5. 天然物  
6. 天然物  
7. 天然物  
8. 天然物  
9. 天然物  
10. 天然物  
11. 天然物  
12. 天然物  
13. 天然物  
14. 天然物  
15. 天然物  
16. 天然物  
17. 天然物  
18. 天然物  
19. 天然物  
20. 天然物  
21. 天然物  
22. 天然物  
23. 天然物  
24. 天然物  
25. 天然物  
26. 天然物  
27. 天然物  
28. 天然物  
29. 天然物  
30. 天然物  
31. 天然物  
32. 天然物  
33. 天然物  
34. 天然物  
35. 天然物  
36. 天然物  
37. 天然物  
38. 天然物  
39. 天然物  
40. 天然物  
41. 天然物  
42. 天然物  
43. 天然物  
44. 天然物  
45. 天然物  
46. 天然物  
47. 天然物  
48. 天然物  
49. 天然物  
50. 天然物  
51. 天然物  
52. 天然物  
53. 天然物  
54. 天然物  
55. 天然物  
56. 天然物  
57. 天然物  
58. 天然物  
59. 天然物  
60. 天然物  
61. 天然物  
62. 天然物  
63. 天然物  
64. 天然物  
65. 天然物  
66. 天然物  
67. 天然物  
68. 天然物  
69. 天然物  
70. 天然物  
71. 天然物  
72. 天然物  
73. 天然物  
74. 天然物  
75. 天然物  
76. 天然物  
77. 天然物  
78. 天然物  
79. 天然物  
80. 天然物  
81. 天然物  
82. 天然物  
83. 天然物  
84. 天然物  
85. 天然物  
86. 天然物  
87. 天然物  
88. 天然物  
89. 天然物  
90. 天然物  
91. 天然物  
92. 天然物  
93. 天然物  
94. 天然物  
95. 天然物  
96. 天然物  
97. 天然物  
98. 天然物  
99. 天然物  
100. 天然物  
101. 天然物  
102. 天然物  
103. 天然物  
104. 天然物  
105. 天然物  
106. 天然物  
107. 天然物  
108. 天然物  
109. 天然物  
110. 天然物  
111. 天然物  
112. 天然物  
113. 天然物  
114. 天然物  
115. 天然物  
116. 天然物  
117. 天然物  
118. 天然物  
119. 天然物  
120. 天然物  
121. 天然物  
122. 天然物  
123. 天然物  
124. 天然物  
125. 天然物  
126. 天然物  
127. 天然物  
128. 天然物  
129. 天然物  
130. 天然物  
131. 天然物  
132. 天然物  
133. 天然物  
134. 天然物  
135. 天然物  
136. 天然物  
137. 天然物  
138. 天然物  
139. 天然物  
140. 天然物  
141. 天然物  
142. 天然物  
143. 天然物  
144. 天然物  
145. 天然物  
146. 天然物  
147. 天然物  
148. 天然物  
149. 天然物  
150. 天然物  
151. 天然物  
152. 天然物  
153. 天然物  
154. 天然物  
155. 天然物  
156. 天然物  
157. 天然物  
158. 天然物  
159. 天然物  
160. 天然物  
161. 天然物  
162. 天然物  
163. 天然物  
164. 天然物  
165. 天然物  
166. 天然物  
167. 天然物  
168. 天然物  
169. 天然物  
170. 天然物  
171. 天然物  
172. 天然物  
173. 天然物  
174. 天然物  
175. 天然物  
176. 天然物  
177. 天然物  
178. 天然物  
179. 天然物  
180. 天然物  
181. 天然物  
182. 天然物  
183. 天然物  
184. 天然物  
185. 天然物  
186. 天然物  
187. 天然物  
188. 天然物  
189. 天然物  
190. 天然物  
191. 天然物  
192. 天然物  
193. 天然物  
194. 天然物  
195. 天然物  
196. 天然物  
197. 天然物  
198. 天然物  
199. 天然物  
200. 天然物  
201. 天然物  
202. 天然物  
203. 天然物  
204. 天然物  
205. 天然物  
206. 天然物  
207. 天然物  
208. 天然物  
209. 天然物  
210. 天然物  
211. 天然物  
212. 天然物  
213. 天然物  
214. 天然物  
215. 天然物  
216. 天然物  
217. 天然物  
218. 天然物  
219. 天然物  
220. 天然物  
221. 天然物  
222. 天然物  
223. 天然物  
224. 天然物  
225. 天然物  
226. 天然物  
227. 天然物  
228. 天然物  
229. 天然物  
230. 天然物  
231. 天然物  
232. 天然物  
233. 天然物  
234. 天然物  
235. 天然物  
236. 天然物  
237. 天然物  
238. 天然物  
239. 天然物  
240. 天然物  
241. 天然物  
242. 天然物  
243. 天然物  
244. 天然物  
245. 天然物  
246. 天然物  
247. 天然物  
248. 天然物  
249. 天然物  
250. 天然物  
251. 天然物  
252. 天然物  
253. 天然物  
254. 天然物  
255. 天然物  
256. 天然物  
257. 天然物  
258. 天然物  
259. 天然物  
260. 天然物  
261. 天然物  
262. 天然物  
263. 天然物  
264. 天然物  
265. 天然物  
266. 天然物  
267. 天然物  
268. 天然物  
269. 天然物  
270. 天然物  
271. 天然物  
272. 天然物  
273. 天然物  
274. 天然物  
275. 天然物  
276. 天然物  
277. 天然物  
278. 天然物  
279. 天然物  
280. 天然物  
281. 天然物  
282. 天然物  
283. 天然物  
284. 天然物  
285. 天然物  
286. 天然物  
287. 天然物  
288. 天然物  
289. 天然物  
290. 天然物  
291. 天然物  
292. 天然物  
293. 天然物  
294. 天然物  
295. 天然物  
296. 天然物  
297. 天然物  
298. 天然物  
299. 天然物  
300. 天然物  
301. 天然物  
302. 天然物  
303. 天然物  
304. 天然物  
305. 天然物  
306. 天然物  
307. 天然物  
308. 天然物  
309. 天然物  
310. 天然物  
311. 天然物  
312. 天然物  
313. 天然物  
314. 天然物  
315. 天然物  
316. 天然物  
317. 天然物  
318. 天然物  
319. 天然物  
320. 天然物  
321. 天然物  
322. 天然物  
323. 天然物  
324. 天然物  
325. 天然物  
326. 天然物  
327. 天然物  
328. 天然物  
329. 天然物  
330. 天然物  
331. 天然物  
332. 天然物  
333. 天然物  
334. 天然物  
335. 天然物  
336. 天然物  
337. 天然物  
338. 天然物  
339. 天然物  
340. 天然物  
341. 天然物  
342. 天然物  
343. 天然物  
344. 天然物  
345. 天然物  
346. 天然物  
347. 天然物  
348. 天然物  
349. 天然物  
350. 天然物  
351. 天然物  
352. 天然物  
353. 天然物  
354. 天然物  
355. 天然物  
356. 天然物  
357. 天然物  
358. 天然物  
359. 天然物  
360. 天然物  
361. 天然物  
362. 天然物  
363. 天然物  
364. 天然物  
365. 天然物  
366. 天然物  
367. 天然物  
368. 天然物  
369. 天然物  
370. 天然物  
371. 天然物  
372. 天然物  
373. 天然物  
374. 天然物  
375. 天然物  
376. 天然物  
377. 天然物  
378. 天然物  
379. 天然物  
380. 天然物  
381. 天然物  
382. 天然物  
383. 天然物  
384. 天然物  
385. 天然物  
386. 天然物  
387. 天然物  
388. 天然物  
389. 天然物  
390. 天然物  
391. 天然物  
392. 天然物  
393. 天然物  
394. 天然物  
395. 天然物  
396. 天然物  
397. 天然物  
398. 天然物  
399. 天然物  
400. 天然物  
401. 天然物  
402. 天然物  
403. 天然物  
404. 天然物  
405. 天然物  
406. 天然物  
407. 天然物  
408. 天然物  
409. 天然物  
410. 天然物  
411. 天然物  
412. 天然物  
413. 天然物  
414. 天然物  
415. 天然物  
416. 天然物  
417. 天然物  
418. 天然物  
419. 天然物  
420. 天然物  
421. 天然物  
422. 天然物  
423. 天然物  
424. 天然物  
425. 天然物  
426. 天然物  
427. 天然物  
428. 天然物  
429. 天然物  
430. 天然物  
431. 天然物  
432. 天然物  
433. 天然物  
434. 天然物  
435. 天然物  
436. 天然物  
437. 天然物  
438. 天然物  
439. 天然物  
440. 天然物  
441. 天然物  
442. 天然物  
443. 天然物  
444. 天然物  
445. 天然物  
446. 天然物  
447. 天然物  
448. 天然物  
449. 天然物  
450. 天然物  
451. 天然物  
452. 天然物  
453. 天然物  
454. 天然物  
455. 天然物  
456. 天然物  
457. 天然物  
458. 天然物  
459. 天然物  
460. 天然物  
461. 天然物  
462. 天然物  
463. 天然物  
464. 天然物  
465. 天然物  
466. 天然物  
467. 天然物  
468. 天然物  
469. 天然物  
470. 天然物  
471. 天然物  
472. 天然物  
473. 天然物  
474. 天然物  
475. 天然物  
476. 天然物  
477. 天然物  
478. 天然物  
479. 天然物  
480. 天然物  
481. 天然物  
482. 天然物  
483. 天然物  
484. 天然物  
485. 天然物  
486. 天然物  
487. 天然物  
488. 天然物  
489. 天然物  
490. 天然物  
491. 天然物  
492. 天然物  
493. 天然物  
494. 天然物  
495. 天然物  
496. 天然物  
497. 天然物  
498. 天然物  
499. 天然物  
500. 天然物  
501. 天然物  
502. 天然物  
503. 天然物  
504. 天然物  
505. 天然物  
506. 天然物  
507. 天然物  
508. 天然物  
509. 天然物  
510. 天然物  
511. 天然物  
512. 天然物  
513. 天然物  
514. 天然物  
515. 天然物  
516. 天然物  
517. 天然物  
518. 天然物  
519. 天然物  
520. 天然物  
521. 天然物  
522. 天然物  
523. 天然物  
524. 天然物  
525. 天然物  
526. 天然物  
527. 天然物  
528. 天然物  
529. 天然物  
530. 天然物  
531. 天然物  
532. 天然物  
533. 天然物  
534. 天然物  
535. 天然物  
536. 天然物  
537. 天然物  
538. 天然物  
539. 天然物  
540. 天然物  
541. 天然物  
542. 天然物  
543. 天然物  
544. 天然物  
545. 天然物  
546. 天然物  
547. 天然物  
548. 天然物  
549. 天然物  
550. 天然物  
551. 天然物  
552. 天然物  
553. 天然物  
554. 天然物  
555. 天然物  
556. 天然物  
557. 天然物  
558. 天然物  
559. 天然物  
560. 天然物  
561. 天然物  
562. 天然物  
563. 天然物  
564. 天然物  
565. 天然物  
566. 天然物  
567. 天然物  
568. 天然物  
569. 天然物  
570. 天然物  
571. 天然物  
572. 天然物  
573. 天然物  
574. 天然物  
575. 天然物  
576. 天然物  
577. 天然物  
578. 天然物  
579. 天然物  
580. 天然物  
581. 天然物  
582. 天然物  
583. 天然物  
584. 天然物  
585. 天然物  
586. 天然物  
587. 天然物  
588. 天然物  
589. 天然物  
590. 天然物  
591. 天然物  
592. 天然物  
593. 天然物  
594. 天然物  
595. 天然物  
596. 天然物  
597. 天然物  
598. 天然物  
599. 天然物  
600. 天然物  
601. 天然物  
602. 天然物  
603. 天然物  
604. 天然物  
605. 天然物  
606. 天然物  
607. 天然物  
608. 天然物  
609. 天然物  
610. 天然物  
611. 天然物  
612. 天然物  
613. 天然物  
614. 天然物  
615. 天然物  
616. 天然物  
617. 天然物  
618. 天然物  
619. 天然物  
620. 天然物  
621. 天然物  
622. 天然物  
623. 天然物  
624. 天然物  
625. 天然物  
626. 天然物  
627. 天然物  
628. 天然物  
629. 天然物  
630. 天然物  
631. 天然物  
632. 天然物  
633. 天然物  
634. 天然物  
635. 天然物  
636. 天然物  
637. 天然物  
638. 天然物  
639. 天然物  
640. 天然物  
641. 天然物  
642. 天然物  
643. 天然物  
644. 天然物  
645. 天然物  
646. 天然物  
647. 天然物  
648. 天然物  
649. 天然物  
650. 天然物  
651. 天然物  
652. 天然物  
653. 天然物  
654. 天然物  
655. 天然物  
656. 天然物  
657. 天然物  
658. 天然物  
659. 天然物  
660.

## 第七節 八幡神社

大神宮合祀社在境現勢	村内物	所
祭神	仲哀天皇 應神天皇 神功皇后	
物部膳咲連	武内宿禰大臣 中臣烏賀津連 大伴武以連	
合祀	天照太神	
所在	西彼杵郡高濱村字西濱添參百九拾六番地 口ノ一	
沿革	元祿六年癸酉八月廿二日の勧請で明治廿二年祠掌山口矩英死歿まで は野母村熊野神社神主山口氏の兼務する所であつた。	
明治四十一	年 村社に列せられ爾來今日に及んで居る。 <small>の沿革全く不明</small>	
目下社掌壹名、氏子四百六拾六戸、舊正月十一日に初祈禱とて大祭を、舊	末社高濱村字蔭平無格社太神宮神社を本社に合祀した。	
八月廿五日、九月廿六日の兩度に例祭を執行して居る。		
境内	六百五拾壹坪	
境内建物	官有地第一種	

正殿 木造、銅板葺、流造 壱坪參合餘（八尺に六尺）の建物で勾欄附廻縁向拜を附設す、神殿は五尺に四尺六寸あり、舞殿と五尺に壹間の廊下を以て接續する。

舞殿 木造、瓦葺、切妻造、平屋參坪 壱丈貳尺に九尺 廊下と棟を同じうする。

拜殿 木造、瓦葺、入母屋造、平屋五坪 壱丈五尺に壹丈貳尺 の建物で前面に向拜口六間に參尺 左側に控所貳坪 六尺に壹丈貳尺 を附設する、殿内正面梁上に箭武者大明神の横額木製あり字体頗る佳調を帶びて居る。

鳥居 二基ありて拜殿前に相並ぶ

1. 拜殿の直前に在り、高壹丈巾九尺、八幡神社（額）大正六年十月吉日高濱村字德道山口儀平治建之（銘）

2. 1の直前にあり、高サ巾に同じ、八幡神社（額）肥前國彼杵郡高濱村庄屋

肇儀右衛門守峰龍助施主村中（銘）

常夜燈 壱對、高六尺五寸、安政四丁巳年九月吉日奉獻永代常夜燈

常夜燈 駒團右衛門他拾參名（氏名略）（銘）

歴代神職世系

不詳

附屬社  
一、龍田神社 雜社

所在 同村大古里  
祭神 志那津比古命  
志那都比賣命

所在 在 無格社編入  
沿革 不詳、明治三十四年無格社に編入さる、舊九月九日に例祭を執行する。  
大古里郷住民の氏神である。

所在 在 建物  
境内建物  
正殿 南面す、木造、瓦葺、切妻造、平家壹坪（方六尺）  
拜殿 木造、瓦葺、入母屋造、平屋九坪（方壹丈八尺）の建物で五尺に貳尺の向  
拜が附設さる。何れも建設年月不明。  
鳥居 （右）師寫抖明神と扁す、高八尺巾七尺、嘉永二年の建立に屬する。（師寫抖  
は師奈斗か）

境内 九拾坪

東西六間  
南北七間  
官有地第一種

境内建物  
正殿 南面す、木造、瓦葺、切妻造、平家壹坪（方六尺）  
拜殿 木造、瓦葺、入母屋造、平屋九坪（方壹丈八尺）の建物で五尺に貳尺の向  
拜が附設さる。何れも建設年月不明。  
鳥居 （右）師寫抖明神と扁す、高八尺巾七尺、嘉永二年の建立に屬する。（師寫抖  
は師奈斗か）

二、御食都神社 雜社

五祭 神宇迦之御魂命

所在 在 建物  
同村字以下宿名千八百拾參番地 イノ第二 長崎縣廳より陸路五里半を  
隔つ。

沿革 不明、明治三十四年無格社に編入さる、例祭は舊九月十五日に執行  
以下宿名の氏神である。

境内建物  
正殿 百六拾貳坪

境内建物  
正殿 東面す、木造、瓦葺、入母屋造、平屋貳坪（九尺に八尺）

境内建物  
正殿 構造正殿に同じ壹坪六合餘（壹丈に五尺）

境内建物  
正殿 構造前者に同じ六坪貳合五勺（方壹丈五尺）  
明治三十九年秋の改築にかかる。

三、龍田神社 雜社

祭神 志那津比古命  
志那都比賣命

長崎市史地誌編 御食都神社 龍田神社

長崎市史地誌篇 龍田神社 八幡神社

七五四

所在 西彼杵郡高濱村字出口

此の地は高濱村と野母村との境界地で境内を南に出づること數歩にして直ちに野母村となつて居る、それで俗に高濱出口と稱し以て野母出口と區分する。長崎縣廳より陸路七里六丁。

沿革 創立及び變遷共に不明、明治三十四年無格社に編入さる、祭日舊九月廿一日で出口郷全部を氏子とす。

境内 参拾八坪

南北五間

官有地第一種

境内建物

正殿

北面す、木造、瓦葺、切妻造、平屋八合貳勾餘（六尺に五尺）

拜殿

木造、瓦葺、入母屋造、平家五坪（壹丈五尺に壹丈貳尺）で向拜

此の他鳥居  
（六尺に貳尺五寸）口を有す、正殿と共に建設年月不詳

出好祇社と銘す、高八尺巾七尺

境内には椎の老木五株あり、何れも一根四幹又は五幹武者立ちの巨樹であるが特に拜殿前の一株は既に朽ち僅に半面を維持する樹皮により更に一巨枝を生じ鬱蒼として繁榮して居る。

#### 四、八幡神社 雜社

祭神 應神天皇  
仲哀天皇  
功皇后

所在

同村黒濱郷、長崎縣廳より陸路五里を隔つ。

境内

貳百七拾坪

官有地第一種

境内建物

正殿

北面す、木造、銅板葺、流造參坪（壹丈貳尺に九尺）明治四十二年三月改築

祝詞殿

木造、瓦葺、切妻造、平屋壹坪半（九尺に六尺）

拜殿

木造、瓦葺、切妻造、平屋六坪貳合五勺（方壹丈五尺で向拜六尺に參尺）

祝詞殿

以上之の建物は明治三十九年八月改築せしものである。

鳥居

（石）壹基高壹丈巾八尺で文久二年三月

常夜燈

（石）今田庄右衛門、黒濱名中の銘がある。

當社境内に附屬社として山ノ神（石祠）秋葉神社（同）猿田彦神社（同）等がある。

## 補遺（長崎市）

水口天満宮  
菅原道真公

所在 八坂町七拾參番地

沿革 元文五庚辛年二月吉旦臨川院謙光が誌する所、水口天神記を假名文とせしものを左に掲げて記述に代うることとする。

水口天神はいづれの時よりか傳へ來けん、所の人々相共に神異を仰ぎ年久しく春秋の祭に怠らざりけるどなん、元和年中長崎の奉行水野公（寛永三年より來任、元和中なら長谷川権六郎なり（福田記））と親し、彼沙門始めて清水寺の地を開きける比ほひ、水野公慶順の爲に水口の山田、家うまばらに有ける地を擇び施し寺院をすへ置べしとて天神の廟かねて其民に屬し、折節の祭など侍りしかども、民賴母しげなくていつしかに祭をも怠りぬ、こゝに於て水口より清水の境内に移し奉る、今に及んで百年

許り清水天神、是也、かくて水口の神跡むぐらよもぎのみして恬然として顧る者だにあらず、民も世渡り貧しく家こそりて散りくになりぬ、其後釋周傳たまゝ、其地を得て草庵を結び窓に神に仕うまつれるこど年ありき、斯る神跡の名有りて實有れども久しく絶え廢れたる事を常に歎きて寢食安からず、再び明らかに久絶を興し侍らんとの志深く切なりける、然るに丙午享保十一年也の秋九月廿五日の夜周傳夢に多賀新甫氏の家に行けるが、其妻謂へらく我家に靈驗著なる天神の像まします拜ませ参らせんとて、やがて尊像を抱き奉り來れるを周傳伏し拜み有難しども中々言はん方なく感涙袖をうるはせり、妻のいはく神は清淨にして穢を厭ひ玉ふとかや、上人若し神に仕へんとなれば精舎に送り奉らんと言ふより、周傳が衣にかけまくも畏き御影移らせ玉ふを見て時に地動き夢さめぬに、其妻いへらく我日比崇め奉る天神水口へ行かせ玉はんと昨夜夢の御告ありけるにぞ偽は尊像に別奉る事御名残の涙頻りにせきあへざりし夢物語に、周傳奇瑞の思割符を合する心地し侍りて共に歡喜の袖をしば

水野河内社地  
を賜ふ

所 在

りきく人感を催しけり、それより靈夢に任せ周傳自ら土を運び木を負ひ普く世に勧め唱へて廢たる跡に就て重ねて廟宇を構へけるに、幾程なく成就し、すなはち十月朔日地を祓ひ清めてかの神像を迎奉り朝夕香花をさゝげ敬ひ仕ふまつれることになりぬ、あはれ水口天神の名實古に還ることは周傳よりぞ始れりける、水口、清水神豈其徳を二つにし玉はんやかかる由來語り繼いひ傳へて後の人をして永く忘れさらしめんと、臨川老禪の記する所を聊やまと文に和らげ、世俗の一覽にたよりするものならじ。

元文五年三月上旬

梅嶺軒正豪述

水口天満宮社守松尾氏の記録に據れば、元和年中本石灰町町人に明石兵左衛門なる者が居た、寛永三年より六年頃迄の間に兵左衛門は五穀豐穰の爲めに天満宮を勧請したものであつた、當時社地の附近は一面の水田が打續いて居た、そして灌漑用水の水源が神社の側であつたから水口と稱へたと云ふ。地所々有者は高野平の百姓で市右衛門と云ひ、子與右衛門其の子彌平次に至り、明和四年六月土地及び天満宮社を舉

げて銀壹貫參百目を以て愛宕上宮社人松尾土佐なる者に譲り渡した。

是より先き寶曆八年諏訪神社と末社關係を結んだ。

明和三年二月廿七日 西古川町炭屋より出火、北風烈しかり爲め油屋町、八坂町方面焦土と化し當社も類焼したが町年寄後藤惣左衛門社殿を、樺島町塗屋只七木鳥居を寄進し再建成就。

明和九年二月 社人松尾左近土佐の子愛宕社上宮より水口へ來りその宮守となつた。

安永七年二月 本五島町村江儀兵衛石祠一字奉納につき、同年五月朔日正遷宮を行つたが諏訪神社關係の瀧川、左仲東佐渡元言舍人や、梅園社の神門官十郎等が神事に執掌した。此の時、大村町村江清右衛門は木鳥居一基を奉納した。

安永九年 東濱町井手儀三、大嶋吉郎八の世話で大方の寄附金を求め神主住宅を改築した。

天明二年八月 廿五日當社祭典より諏訪神社に請ふて始めて湯立神樂を執行し爾來恒例となした。

天明四年 正月社前に参道を新設した。従前の社道は所謂畦畔で道巾狭く往來不自由であつたので此の年今石灰町乙名小西八十郎主として町年寄年番高嶋嘉一郎へ出願し水汲道新設の名目を以て新道を開設したのであつた。

天明五年九月 諏訪神社末社に附し水口天満宮神主として神祇管領長吉田家の許状を受領し今年の神幸に供奉した。

天明七年二月 今石灰町乙名小西八十郎石燈籠一基奉納。

嘉永二年五月 社殿全部の改築を行つた、夫れが現在の建物である。

#### 現況

正殿 木造、瓦葺、流造貳坪貳合五勺方壹間半、石壇入壹丈四尺に壹丈、演縁壹丈入參尺

拜殿 木造、瓦葺、向入母屋造五坪、間口貳間半、入貳間、向拜壹丈に參尺。

石祠 稲荷神社、總高六尺位(石垣共)萬延元年八月建兩石灰町中(氏名略)の銘あり。

獅子像石(壹對) 中島保之助廣近、建造安政七年五月、この外石鳥居慶應三年九月、無銘

石鳥居各壹對石燈籠壹對安政三年二月、手水鉢嘉永二年五月、明治三年七月等がある。

正殿は屋根破れ落ち、柱梁朽ち損じ、拜殿との間の昇廊下は先年取り拂はれて其の跡は空地となり、拜殿は天満宮の額や種々の匾額が掲げられて居るけれども、戸障子の設けもなく今は物置に充用されて居る。

本社は前記の如き由緒あるに係はらず明治七年届出を怠りし爲め、全く無籍の神社となり、維新後舊神主歿落後社地は社殿と共に轉々賣却せられ、明治二十年頃より現在所有者の所有に歸したが、年と共に朽敗して見る影も無いので神慮も計り難く近時所有者、有志者の間に神社復興の計畫が行はれつゝある。

#### 現况

長崎市史地誌編 摂合會下卷

この本は、長崎市史地誌編の下巻で、昭和四年三月三十日発行された。著者は藤木喜平、編集者は長崎市役所である。本文は、長崎市史地誌編の下巻であり、その内容は、長崎市史地誌編の上巻と連続するものである。本文は、長崎市史地誌編の下巻であり、その内容は、長崎市史地誌編の上巻と連続するものである。

昭和四年三月二十日印刷

昭和四年三月三十日發行

長崎市史地誌編

神社教會部下

發編  
行纂  
者兼

長崎市役所

印刷者 藤木喜平

長崎市榎津町七番地

印刷所 藤木博英社

長崎市榎津町七番地

終